

都心エリア活性化 新「学都仙台」提言

(大学・学生が支える街 街が育む学生・大学)

平成27年11月

都心エリア活性化 学都まちづくり懇話会

目次

はじめに	・・・ 2
学都仙台の課題	・・・ 3
都心エリア活性化学都まちづくりにむけて	
概要版	・・・ 4
基本方針	
1. 仙台都心と大学間の連携強化	・・・ 6
2. 大学間の資源を活用した都心まちづくり	・・・ 8
3. 都心の資源を活用した学都まちづくり	・・・ 9
4. 都心の市街地環境の整備	・・・ 11
都心エリア活性化学都まちづくりによる効果	・・・ 12
本提言の実現に向けて	・・・ 13
参考資料	
都心エリア活性化学都まちづくり懇話会 委員名簿	
検討スケジュール	
学生ワークショップで出された意見	
検討資料	

はじめに

「学都」を標榜する都市は国内にも複数存在するが、仙台はその代表格である。

江戸時代の藩校「養賢堂」に始まり、明治以降は関東以北における人材育成の拠点として、旧制二高や宮城師範学校など国の高等教育機関が設置された。また、私立のミッションスクールも明治中期から次々に設立され、コンパクトな旧城下町に多くの高等教育機関が立地し、学生や教師と街の人が密接に関わる「学都」としての文化を育んできた。

しかし、戦後の市街地の拡大とともに大学も仙台市郊外または他自治体へと転出したため、学都仙台としてのイメージ及び機能が弱まってきた。さらには、18歳人口の急速な減少や大学卒業後の東北外への人材流出などにより、仙台における若者の活力自体が失われつつある。

他方、世界的に見てもキャンパスシティは情報・人材の集積、産業創出、地域ブランドのイメージアップなどの観点から大きな注目を浴びている。国内においても、多くの自治体が都心再構築の核として大学キャンパスの誘致を行っているところである。

ひるがえって仙台都心を見てみると、片平・五橋地区に歴史あるキャンパス景観や城下町のメインストリートである奥州街道の雰囲気は継承されている。また、一番町や駅周辺をはじめとして、さまざまな大学のサテライトや専門学校なども立地している。すなわち、仙台都心は学都の拠点としての非常に高いポテンシャルを有しているといえる。しかし、これまではそのポテンシャルを十分には活かしきれていなかったのも事実であろう。

したがって、このような仙台都心において、商店街・地域産業・地域住民等と大学・学生とのダイナミックな交流を促進すること、さらには大学間や学生間の交流も促進することを通じて、情報や人材の集積を促し、イノベーションを起こし、それによって仙台の総合力を高める取り組みが求められている。

本懇話会では、都心商店街、都心南部の町内会及び都心に立地する4大学の関係者が集い、学生からの意見も踏まえつつ、地域と大学との連携のあるべき姿について議論した。本提言書は、その成果を取りまとめたものである。

この提言を実現させるためには、関係者の主体的積極的な取り組みと連携・協力が必要である。これは大変な労力を要することであるが、我々はその先にこそ学都仙台の未来があると確信している。

平成27年11月吉日

都心エリア活性化学都まちづくり懇話会 座長
東北大学大学院工学研究科 准教授 姥浦 道生

学都仙台の課題

当懇話会や学生ワークショップを通じて学都仙台に関する様々な課題が挙げられた

1) 学都仙台のイメージと実態の乖離

- ・ 少子化が進み、まちなかの活力低下も懸念される中で若者が集う街としての魅力を高めることが重要
- ・ 「学都仙台」にふさわしい具体的なランドマークがなくイメージが薄い
- ・ 都心に居住する学生が少なく、地域との交流や協力も限定的
- ・ 安心して歩ける環境が学生街として整備されていない

2) 学生と市民との人的交流やキャンパス開放の推進

- ・ 大学キャンパスをより一層市民が使いやすく、地域に開く必要性
- ・ 非常時の備えとしても地域と大学の日常的な交流が大切
- ・ 子供の健全育成に大学の力をより一層活用したい

3) 大学が集積している利点の強化

- ・ より一層産学連携を強め地域の産業振興に貢献してほしい
- ・ 多様な専門性を持つ大学の集積を活かし、より一層大学間の交流を深める
- ・ 卒業後に仙台を離れて就職する人が多く、若者の活躍する場がまだ少ない
- ・ 地域や大学同士の情報を共有するプラットフォームが必要

学都仙台都心エリアの位置づけ

仙台都心エリアとは、仙台都心南部の地下鉄南北線五橋駅と東西線の大町西公園駅、青葉通一番町駅から仙台駅を挟んで連坊駅付近を対象とする。

☐ 東北各地方から若者を集めるダム機能

東北各地から集い仙台で学生時代を経験した若者を東北へと返す役割。

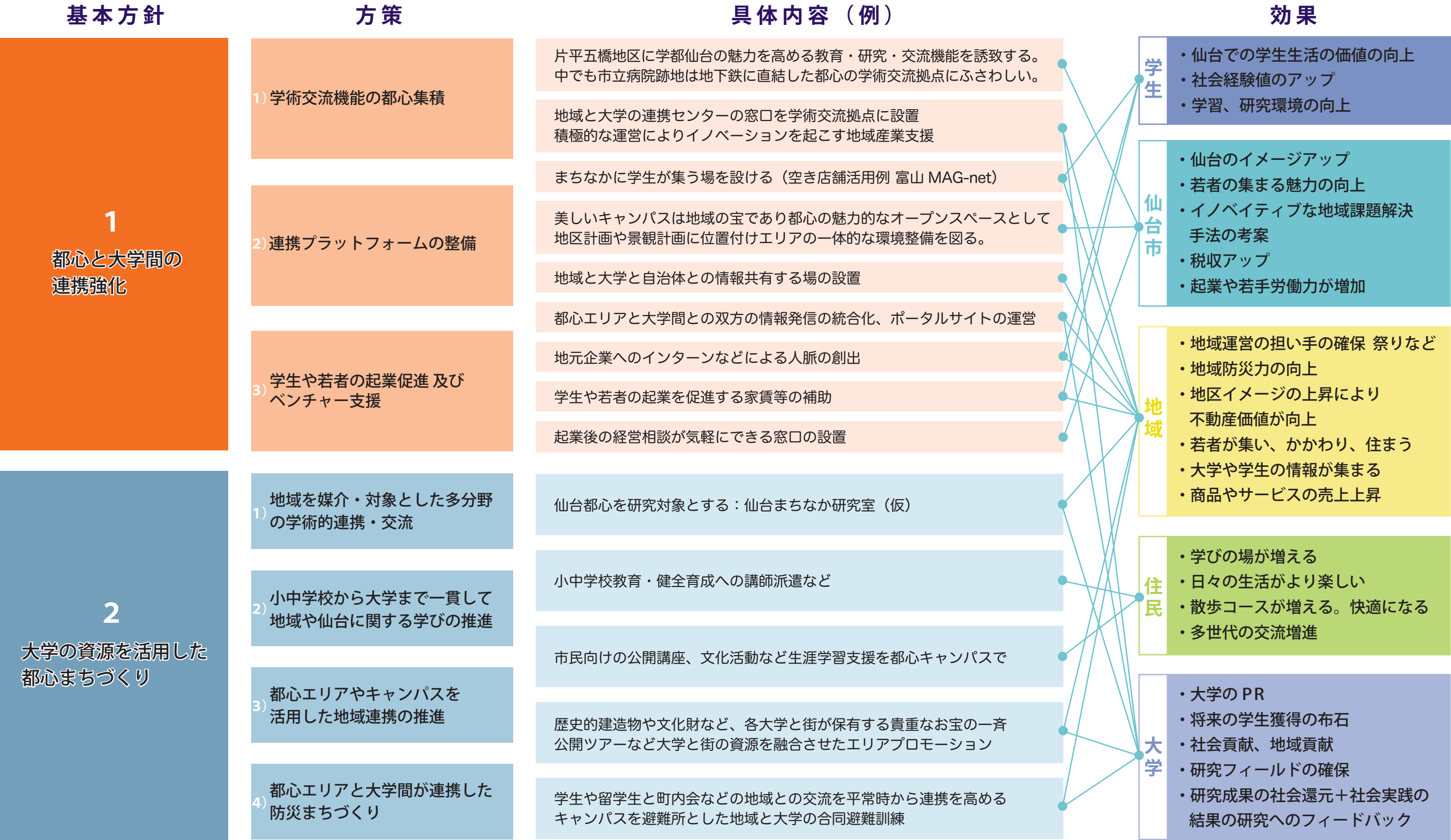
☐ 仙台の都市構造における学都都心エリア

仙台都心部の構造はまとまりがあり、バランスが良い。学術交流機能の地下鉄沿線への集積により都心部を学びのコンテンツにより活性化する。

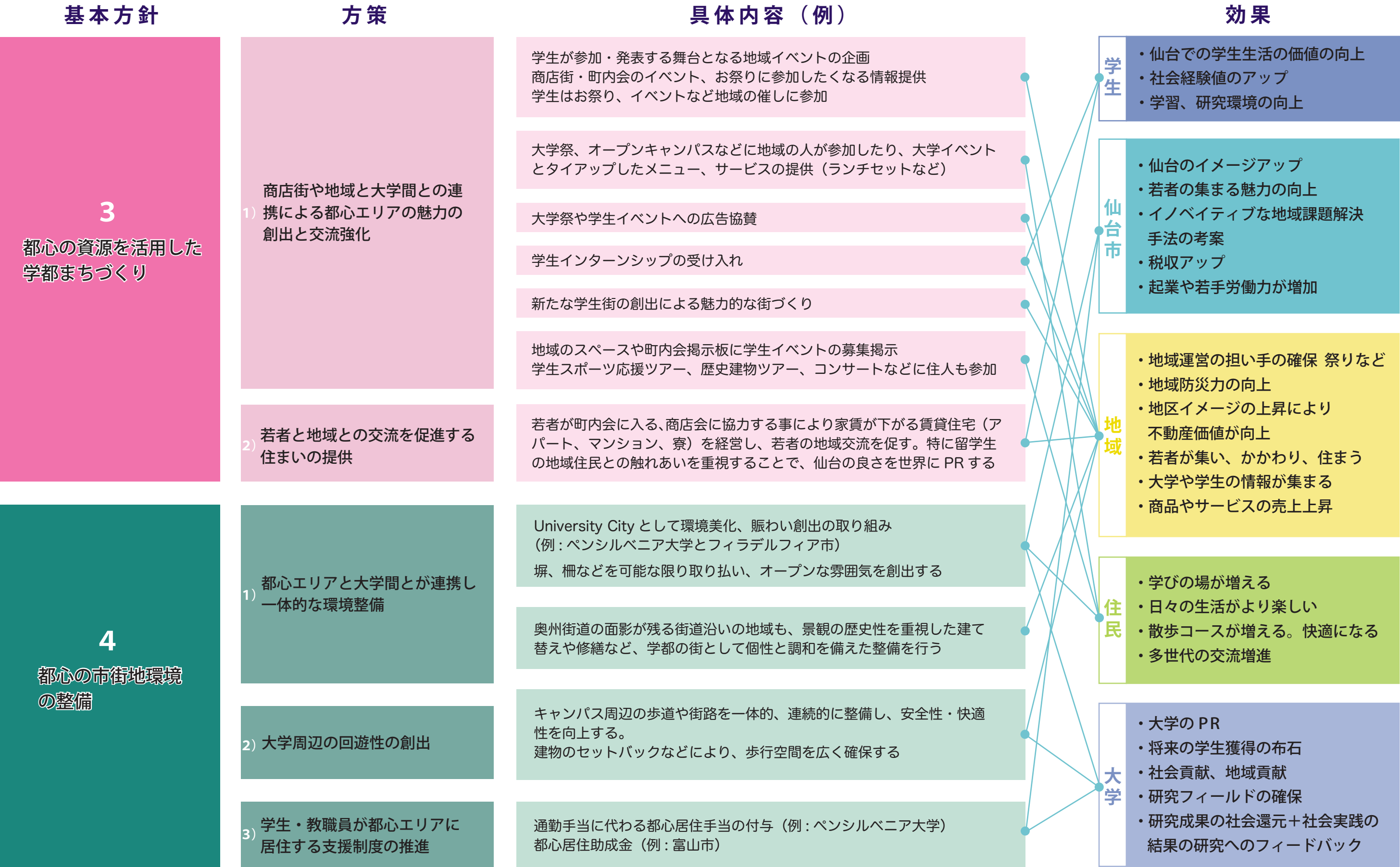
新「学都仙台」提言
都心エリア活性化 学都まちづくりに向けて 1/2

コンセプト

仙台都心と大学間との相補的な連携創出による学都仙台的総合力の創出・発信



新「学都仙台」提言
都心エリア活性化 学都まちづくりに向けて 2/2



都心エリア活性化学都まちづくりにむけて

コンセプト 仙台都心と大学間[※]との相補的な連携創出による 学都仙台の総合力の創出・発信

※ 大学間とは大学や専門学校などの各種高等教育機関および
その教職員・学生の相互の関係を総称したものとする

基本方針

1. 仙台都心と大学間[※]の連携強化

方策

1) 学術交流機能の都心集積

具体内容（例）

- 1-1) 片平-五橋地区に学都仙台の魅力を高める教育・研究・交流機能を誘致する。中でも市立病院跡地は地下鉄に直結しており、都市と大学間[※]との交流拠点にふさわしいと考える。キャンパスを地域市民も利用しやすく整備することで利便性と利用価値の高い学都仙台のランドマークとなる交流拠点をめざす。
- 1-2) 地域-大学間の連携センターの窓口機能を設置し、地元仙台からイノベーションを起こす研究開発を奨励する。PBL（プロジェクト・ベースト・ラーニング）や地域産業を新たなステージに導くイノベーションを起こすためのチャレンジを行いやすくする。
- 1-3) 都心に学生の居場所空間を設置する。利便性の高いまちなかに学生が集う場を設け、大学の枠を超え、地域の人々と学生が街の課題解決に知恵を出し合ったり、課題の原因を探る共同研究を行うなど PBL の拠点として、また各種イベントの企画や準備、運営の活動拠点とする。また、初めて仙台に来た学生が生活情報を交換できる場とする。
（※ 空き店舗のリニューアル事例 富山まちなか研究室 MAG.net ）
- 1-4) 美しいキャンパスは地域の宝であり、一層の景観向上を図り都心の魅力的なオープンスペースとして地区計画や景観計画に位置付け都心エリアの一体的な環境整備を図る。

2) 連携プラットフォームの整備

具体内容（例）

2-1) 地域と大学間と自治体で情報共有する場の設置

本懇話会のような活動を支える地域・大学間・自治体が集い情報交換し、新たな課題解決や魅力アップに向けた取り組みを考案する場を設置する。担当者同士が顔の見える関係づくりを行い、座学の単位互換にとどまらない具体プロジェクトを通じた連携の創発により学都まちづくりに関する新たなワンストップサービスの拠点を形成していく。この拠点機能は前述した交流拠点に将来的に位置付けられることが望まれる。

2-2) 都心エリアと大学間との双方の情報発信の一元化、統合化、ポータルサイトの運営

上記と同様に中心商店街や地域のイベント情報や大学や学生団体の活動情報などが集約され、常に更新されていくサイトを運営する。

3) 学生や若者の起業促進及びベンチャー支援

具体内容（例）

3-1) 地元企業へのインターンなどによる人脈の創出

学生が地域の産業や若手経営者との交流の場を増やす。

3-2) 学生や若者の起業を促進する家賃等の補助

学生や若者が住まい、様々なアイデアをぶつけ合う場とするためには低廉な価格での場所の提供が不可欠である。地主や土地や建物の所有者と行政や経済団体の支援などを組み合わせて、起業のチャレンジを行いやすい環境も必要である。

3-3) ベンチャー支援に関する方策

大学・地域・公共団体が連携し、起業後の経営相談が気軽にできる窓口の設置など、地元の就職先となる企業の発展を支援する。

基本方針

2. 大学間の資源を活用した都心まちづくり

方策

1) 地域を媒介・対象とした多分野の学術的連携・交流

具体内容（例）

- 1-1) 仙台都心を研究対象とする：仙台まちなか研究室（仮）の取り組み

仙台のまちなかの課題を研究の対象として、人文学から社会学、経済、都市計画学などが学際的な研究を行うとともに、実践的な活動や実証実験などに地元も協力する体制を作る。

2) 小中学校から大学まで一貫して、地域や仙台に関する学びの推進

具体内容（例）

- 2-1) 小中学校教育・健全育成への講師派遣など

周辺の学校へ大学の講師を派遣する、地元の文化や魅力を見つめ直すテーマの授業を行うなど、学都仙台の特徴を生かした地域愛を育む学びを継続する。

3) 都心地域やキャンパスを活用した地域連携の推進

具体内容（例）

- 3-1) 市民向けの公開講座、文化活動など生涯学習支援を都心キャンパスで行う

若者だけでなく多世代が都心の大学キャンパスに通う、集うことができる学都仙台のライフスタイルを創出する。

- 3-2) 歴史的建造物や文化財など、各大学と街が保有する貴重なお宝の一斉公開ツアーなど大学と街の資源を融合させたエリアプロモーション

歴史ある大学は様々な資産を保有している。特に時代を経た研究史料などは地域とともに歩んできた大学のキャンパスの景観や地域の文化財などとともに学都仙台の価値を高める貴重なものである。そのような資源をまとめて PR することで学都仙台を強く印象付けることが可能となる。

4) 都心エリアと大学が連携した防災まちづくり

具体内容（例）

4-1) 学生と町内会の連携強化

日常の挨拶や買い物時の店員との会話など、僅かなきっかけからでも関係性を作ること
で、災害時の対応に備える。

4-2) キャンパスを避難所とした地域と大学の合同避難訓練

地域の町内会などと合同で避難訓練を行い、いざという時のための連絡体制や対処を確認しておくことは重要なことである。

4-3) 留学生を対象とした地域交流など平常時から連携を高める

常日頃からの挨拶や素朴な地域交流が、非常時の対応につながるため特に日本での生活の不慣れな留学生も交えた交流を深めておくことが大切である。

基本方針

3. 都心の資源を活用した学都まちづくり

方策

1) 商店街や地域と大学との連携による都心エリアの魅力創出と交流強化

具体内容（例）

1-1) 学生が参加・発表する舞台となる地域イベントの企画

商店街は、学生の参加によって盛り上がる地域イベントを学生とともに企画することで、
地域と学生との交流を深める。

1-2) 商店街・町内会のイベント、お祭りに参加したくなる情報提供

これまでの町内会などの行事は若者には参加のメリットが感じられないものが多く、またその告知も的確に届いていないことから、地域のイベント情報をより魅力的に学生や若者に伝えることも重要となる。

1-3) 学生は地域のお祭り、イベントなどの催しに参加

少子高齢化で地域の子供会のお祭りなどの行事も行えなくなっているが、学生の力で神輿の担ぎ手となるなど、地域の行事に参加することで地域貢献する

- 1-4) 大学祭、オープンキャンパスなどに地域の人に参加したり、大学イベントとタイアップしたメニュー、サービスの提供（ランチセットなど）

地域の人でも大学の様々なイベント情報が届くことで参加することが増えたり、イベントの参加者にターゲットを合わせたメニューや商品を販売するなど双方で盛り上げていく。

- 1-5) 大学祭や学生イベントへの広告協賛

地域の企業や商店は大学や学生イベントを協賛によって支えることで学生の活動を活性化し学都仙台を支える。

- 1-6) 学生インターンシップの受け入れ

地域の企業や商店は、地元で働く魅力を実体験として伝える場として学生インターンシップを積極的に受け入れる。

- 1-7) 新たな学生街の創出による魅力的な街づくり

大学キャンパスというセミパブリックスペースにおける交流に加えて、飲食店やショップなどのセミプライベートな交流も重要な要素であり、多様な趣向を受け入れる個性的で学生・教職員の憩いの場（交流の場）となるような店舗が集積し、新たな学生街としての魅力を高める。

- 1-8) 地域のスペースや町内会掲示板に学生イベントの募集掲示

学生の各種団体の活動（学生スポーツ応援ツアー、歴史建物ツアー、コンサートなど）に地域住民にもより参加を促すためにも、町内会の掲示板や集会所、各お店などのスペースに告知ポスターやチラシを置く場所を提供することで、地域の生活と学生の活動をより身近に感じることができる。

2) 若者と地域との交流を促進する住まいの提供

具体内容（例）

若者の力を地域で十分に発揮してもらうために、若者が町内会に入る、商店会に協力する事により家賃が下がる賃貸住宅（アパート、マンション、寮）を経営し、若者の地域交流を促す。（※事例 ワテラススチューデントハウス）

また、特に留学生の地域住民との触れあいを重視することで、留学生が帰国後に仙台の良さを世界にPRすることにもつなげたい。

基本方針

4. 都心の市街地環境の整備

方策

1) 都心エリアと大学間とが連携し一体的な環境整備

具体内容（例）

- 1-1) 大学の周辺地域を University City としてエリアを定め、環境美化、賑わい創出の取り組みなど大学と地域が一体となって行うエリアマネジメント
(※ 例:ペンシルベニア大学とフィラデルフィア市)
- 1-2) 大学キャンパスは塀、柵などを可能な限り取り払い、オープンな雰囲気を創出し、街と大学の連続感や一体感を創出する。キャンパス周辺の歩道や街路を一体的、連続的に整備する
- 1-3) 奥州街道の面影が残る街道沿いの地域も、景観の歴史性を重視した建て替えや修繕など、学都の街として個性と調和を備えた整備を行う

2) 大学周辺の回遊性の創出

具体内容（例）

都心大学周辺の歩行空間の安全性・快適性を向上することで学生が集い、移動しやすくする。また、大学周辺の開発の際には、可能な限り建物のセットバックなどにより、歩行空間を広く確保する

3) 学生・教職員が都心エリアに居住する支援制度の推進

具体内容（例）

大学の教職員や学生が都心の大学付近に居住することにより、大学や地域の環境に注意を払い、また環境地域の教育水準を引き上げる効果も見られること。通勤通学による CO2 削減や事故リスクの低減など、大学キャンパスの近接居住によるメリットは非常に大きいことから各大学で取り組みが始まっている。

- 1) 通勤手当に代わる都心居住手当の付与（例 ペンシルベニア大学）
- 2) 都心居住助成金（例 富山市）

都心エリア活性化学都まちづくりによる効果

仙台都心に交流拠点ができ、専門分野のことなる大学と百万都市が力を合わせることで、学生同士の交流や社会との接点や実体験が増すことにより、仙台の学生はここでしかできない経験を得ることになる。仙台での学生生活の価値は高まり、一人一人の若者の人生のエポックとともに仙台の街が記憶される。そのことが世界や地域で働き始める若者の糧となり、新しい時代を切り拓く力となる。

この取り組みによりそれぞれにもたらされる効果やメリットを次に記す。

学生にとって

- ・ 仙台での学生生活の価値の向上
- ・ 社会経験値のアップ
- ・ 学習、研究環境の向上

仙台市として

- ・ 仙台のイメージアップ
- ・ 若者の集まる魅力の向上
- ・ イノベティブな地域課題解決手法の考案
- ・ 税収アップ
- ・ 起業が増える
- ・ 若手労働力が増える

地域として

- ・ 地域運営の担い手の確保 お祭りなど
- ・ 地域防災力が高まる
- ・ 地区イメージが上がり不動産価値が向上する
- ・ 若者が集まる。住まう
- ・ 情報が集まる
- ・ 商品やサービスの売上向上

地域住民として

- ・ 学びの場が増える
- ・ 住んでいて楽しくなる
- ・ 散歩コースが増える。快適になる
- ・ 多世代の交流増進

大学として

- ・ 大学の PR
- ・ 将来の学生獲得の布石となる
- ・ 社会貢献、地域貢献
- ・ 研究フィールドの確保
- ・ 研究成果の社会還元＋社会実践の結果の研究へのフィードバック

本提言の実現に向けて

ここに取りまとめた『都心エリア活性化 新「学都仙台」提言』は、今後、第一段階として、自治体、地域、商店街、経済界、大学などの関係者へ提言を行い、具体化に向けて次の段階の行動を促していくこととする。

その次の第二段階では、本提言内の基本方針1. 仙台都心と大学間の連携強化の中に掲げた、地域と大学間との連携プラットフォームとして、本懇話会を発展的に改組し、実現に向けた活動を行う。このプラットフォームは地域と大学及び自治体の関係者が核となるべきであり、顔の見える関係性を構築することで新たな学都仙台的推進体制を構築することを目指す。

参考資料

都心エリア活性化化学都まちづくり懇話会委員名簿

○座長

(都市計画・まちづくり専門家)

東北大学大学院工学研究科 准教授 姥 浦 道 生

(商店街関係)

東一番丁連合会	会 長	濱 宏一郎
中央通り連合会	会 長	山 崎 浩 之
仙台駅前商店街振興組合	理事長	横 山 治
本町商店街振興組合	理事長	大 村 正
仙台朝市商店街振興組合	理事長	入間田 博
仙台駅東口商工事業協同組合	理事長	松 坂 卓 夫
荒町商店街振興組合	理事長	佐 藤 光 政
むにゃむにゃ通り商興会	会 長	佐 口 梅 幸
連坊商興会	会 長	武 田 宏
柳町会	会 長	郷 古 耕 一

(町内会関係)

片平地区連合町内会	会 長	今 野 均 (花壇大手町町内会)
五橋地区連合町内会	会 長	古 山 健 造 (青葉土樋町町内会)
荒町地区連合町内会	会 長	蘆 立 統 夫 (石垣町町内会)
東二地区連合町内会	会 長	五十嵐 善 正 (駅前南町通親和会)

(大学)

国立大学法人東北大学	理 事 (財務・施設・キャンパス計画担当)	佃 良 彦
学校法人東北学院	常任理事 (総務担当)	大 塚 浩 司
東北工業大学	副学長 教 授	石 川 善 美
東北福祉大学	特 任 教 授	草 間 吉 夫

(商工団体)

協同組合 日専連仙台	理事長	山 口 哲 男
仙台商工会議所	専務理事	間 庭 洋

(事務局)

仙台商工会議所
都市デザインワークス

都心エリア活性化学都まちづくり懇話会
検討スケジュール

平成27年 3月26日	第1回まちづくり懇話会 ・趣旨確認、資料に基づく意見交換 など
4月22日	第2回まちづくり懇話会 ・東北学院大学から 土樋キャンパスなど概要の説明 ・東北福祉大学から 仙台駅東口キャンパスの計画など ・意見交換
6月19日	第3回まちづくり懇話会 ・東北大学から 片平キャンパスの計画と地域連携 ・東北工業大学から 一番町ギャラリーや市との連携協定など ・意見交換
8月19日	学生ワークショップ ・東北大学、東北学院大学、東北工業大学、東北福祉大学から2名ずつ計8名の学生により、学都仙台の実感について意見交換
9月 1日	第4回まちづくり懇話会 ・学生ワークショップでの報告 ・とりまとめ素案の説明 ・意見交換
10月29日	第5回まちづくり懇話会 ・とりまとめ案の説明 ・意見交換
11月	まちづくり懇話会から、地元商店街、大学、地域、仙台市等関係者に 『都心エリア活性化 新「学都仙台」提言』を提案

学生ワークショップによる意見

日時：平成27年 8月19日
テーマ：1) 学都仙台のイメージ
2) キャンパスとその周辺のまちの印象、他大学のイメージ
3) 仙台の中心部商店街及び各人の住まう町内会とのかかわり

参加学生：林 明希人さん／安西 瞳さん※ 東北大学
尾形 翼さん※／石田 千佳さん 東北学院大学
武内 裕子さん／須藤 のぞみさん 東北福祉大学
吉田 圭輔さん／高須 未来さん 東北工業大学
※ 第4回まちづくり部会での報告者

学 都 仙 台

- ・学都仙台という言葉は知ってはいたが、具体的なイメージ（場所、建物、ランドマーク）がない。
- ・仙台はイベントが多いが、学生街のイメージがない。
- ・昔に比べ大学が中心部になくなってきているからでは？
- ・様々な大学の資源、色々な専門を学ぶ学生が交流するとともに色々なことが仙台はできる
→自分たちも他分野を知りたい、交流したい／地域連携の種
- ・卒業後も地元に残ったり戻って来たくなるよう、地元のことを考える人育てが重要

大 学

- ・アルバイトやサークルでは大学を超えた交流があるが、学業面での大学間交流があまりない
- ・先生同士の交流もより大切
- ・片平は歴史を感じる。土樋は正門付近など大学らしさを感じる。工大は病院のよう。。
- ・キャンパス内を地域の人が通行（片平）
- ・礼拝堂でのイベント等（土樋）
- ・福祉大キャンパスは芹沢美術館など市民も多い
- ・図書館、食堂などをより市民も使いやすく
- ・工大の一番町ロビー
：ガラス張りで何をやっているかはわかる
：学生が存在や内容を良く知らない。
使い方もわからない。

街・中心部・地域

- ・市立病院の移転によって地域の活気が減少
→市立病院跡地を大学＋大学間交流の場としての機能を持たせる
- ・大学周辺は地元（資本）の店が多い・学生街のイメージが残っている
→貴重な憩いの場（カフェ）、貴重な服を買う場（小売）
- ・大学生の消費が地元の商業活性化に寄与（国見北山）
- ・地域のお店や企業から学祭などに広告協賛をもらっている。
- ・大学のイベントとの連動した取り組みの重要性（飲食の「片平まつりセット」のような）

学 生

- ・発表の場が貴重
- ・宣伝・発信が重要
- ・街も大学（学生）もお互い積極的に相手のことがわかると交流しやすい
- ・日々の積み重ねが重要、災害時に避難場所となったり、見守りに行ける関係
- ・地元との交流に関心がない／町内会を知らない／若者も参加できるイベントなどチャンスがない／お祭りなどもっと交流したい
- ・サークルでは地域交流があるけど、普段はない
- ・あいさつなど普段の関わり・自然なつながりが重要
- ・連携実践例：
八木山では野草園や老人ホームのお祭りの手伝いなどボランティアサークルを通じた地元との連携
八木山フェスタ、片平夏祭りへの参加